わくわく園庭日記

蒲幼稚園　　№3　R5,5,26

『このみはな～に？』
『これはクワのみです！』

ことしは
たわわにみのりました！

花に代わって、今の園庭には様々な木の実が実っています。「クワ」「グミ」「ジューンベリー」「ヒメリンゴ」、もう間もなく「ヤマモモ」や「ブラックベリー」「ラズベリー」の実が食べごろを迎えるでしょう。そして、美味しくはないですが枝垂れ桜には「サクランボ」、そして食べられませんがあの思いの詰まったフジにも産毛が生えたさやがぶら下がっています。木の実を見つけるとたくさん集めたくなるのは、人間の本能でしょうか？手のひらに溢れんばかりの木の実を集め、ニコニコと微笑む子どもたち。集めた木の実は、そのまま食べるだけでなく、ままごとのデコレーションに活用したり、色水作りの素材にしたり、ジャムを作っておやつにいただいたクラスもあるようです。「実のなる木がほしい」という改造当初に抱いた私たちの思いが徐々に実り始め、特に豊作の今年は子どもたちと一緒にワクワクしながら過ごしています。

土の中の世界から学ぶ

12 月のプロジェクトで仕込んだ腐葉土の発酵が進み、花壇に使える状態になってきたので、掘り起こしてみることにしました。すると、いつの間に集まってきたのでしょう？ダンゴムシやハサミムシ、幼虫やミミズといった生き物たちが、一生懸命働いていました。そして、湿った落ち葉の中は、ほんのり温か…もっと小さな生き物たちによって発酵が進んでいる証拠です。落ち葉がボロボロ～と崩れていく様子に自然のサイクルを見て感じることもできました。「これは何？」一緒に埋まっていた青いビニール素材を指さした子がいました。「これは土に返らないね。何年経ってもずっとこのまま土の中に残るんだ。土に返るものと返らないものがあるんだよ」今、地球規模で抱えている環境問題について、ほんの少し触れることができた気がしました。身近な取り組みから子どもたちに伝えられることは、まだまだたくさんあるなぁと感じました。大事なことは身近な大人が興味を持つことかもしれませんね。

湿度を保つために被せて置いたゴザをめくると…うわ～ダンゴムシの大群だ～。別の場所では、『コウガイビル』というちょっと変わった形の生き物を見つけました。『ヒル』という名にドキッとしますが、人に害はないようです。生き物が好きな子にとっては、新種(?)を見つける絶好の場となっています。子どもたちがかき回すことで、土の中に酸素が送られ発酵が進み、豊かな土へと変化していきます。そう、ぬか床のように…。

みつかった～

にげろ～

. . .

手前では、バーベキューが始まりました。小枝に葉っぱをさして「焼き魚」や「焼き鳥」、小石は「肉」、草花の「野菜」を小枝の箸で手際よく焼いていきます。園庭でも、こんな風にごっこ遊びを楽しむ姿がたくさん見られるようになりました。コロナがきっかけでキャンプやバーベキューを経験した子が多いのかもしれませんね。見立てる遊び、つもりになる遊びは幼児期ならではの楽しみで、友だちを真似て、言葉を通して、他人と共有する楽しみを味わうことができる大事な経験です。